

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	胤 森 裕 暢
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
<p>「価値観形成学習」による「倫理」カリキュラム改革 — 「在り方生き方教育」から「市民性教育」へ—</p>			
論文審査担当者			
主 査	教 授	小 原	友 行
審査委員	教 授	池 野	範 男
審査委員	教 授	棚 橋	健 治
審査委員	教 授	木 村	博 一
審査委員	教 授	朝 倉	淳
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、「人間としての在り方生き方に関する教育」（以下、「在り方生き方教育」）となっている現行の高等学校公民科「倫理」を「市民性教育」としてのそれへと改革するために、「価値観形成学習」という考え方に基づいた新たな「倫理」カリキュラムを開発することを目的としている。</p> <p>論文は、序章から終章までの12の章で構成されているが、大きくは、「倫理」カリキュラム改革のための基礎研究（第1章～第5章）と市民的資質を育成するカリキュラムの開発研究（第6章～第10章）の2部構成になっている。</p> <p>序章では、「倫理」教育における市民性の育成を、現代社会の倫理的問題の認識と市民的資質の統一的育成としてとらえ、高等学校公民科「倫理」における現状は、価値認識（価値観）の教示ないしは理解にとどまり、その育成が不十分であるという課題を指摘した上で、本研究の具体的な目標、特質と意義、手順・方法を述べている。</p> <p>基礎研究である第1部の第1章では、現代社会における市民的資質を育成する上で「倫理」教育、特に価値観形成が果たす役割と意義を明らかにするとともに、本研究において「市民性教育」としての「倫理」カリキュラムを開発していく際の具体的な視点を明らかにしている。</p> <p>第2章では、我が国における「倫理」等の科目改訂の趣旨や目標、さらに内容構成の分析を行い、高等学校学習指導要領公民科「倫理」に内在するカリキュラム開発上の課題を抽出している。</p> <p>第3章では、「在り方生き方教育」として構成されてきた高等学校学習指導要領公民科「倫理」が抱える課題を改善しようとして取り組まれてきた近年の実践的研究及び開発された単元を分析・評価し、「市民性教育」の視点から残された課題を明らかにしている。</p> <p>第4章では、「在り方生き方教育」としての「倫理」を「市民性教育」としてのそれへと転換するために、社会認識教育研究の分野においてこれまでに構築されてきた価値観形成を目指した学習理論と開発された実践について分析・評価し、それらの成果と残された課題を抽出している。そして、課題を克服するための授業理論の構築とカリキュラム開発の</p>			

方向性を明らかにしている。

第5章では、こうしたカリキュラム改革の方向性に基づいて、「在り方生き方教育」としての「倫理」を「市民性教育」としてのそれへと転換していくため、「価値観形成学習」というカリキュラム開発のための新たな理論仮説を提案している。

開発研究である第2部では、先ず第6章において、新たな「価値観形成学習」という理論仮説の概念規定を行うとともに、それに基づく「市民性教育」としての「倫理」カリキュラムの編成原理を明らかにしている。

続く第7章～第10章では、「価値観形成学習」による「倫理」のカリキュラムデザインの考え方にに基づき、公民科「倫理」の年間指導計画の中の全単元の開発を行っている。

第7章では、年間の導入部に位置づく中単元として、「エリクソンとサンデルの技ー倫理的問題と自己の価値観形成を考えるー」を開発している。第8章では、展開部A「現代の社会構造における倫理的問題を考える」単元として、「プラトンとその師ソクラテスから学ぶー民主主義の倫理的問題を考えるー」「ジョブズとゲイツの挑戦ー資本主義の倫理的問題を考えるー」の2つの中単元を開発している。第9章では、展開部B「現代の文化構造における倫理的問題を考える」単元として、「山中教授と日野原医師の願いー生命に関する倫理的問題を考えるー」「孫社長とザッカーバーグCEOの描く未来ー情報に関する倫理的問題を考えるー」「マータイとカーソンの訴えー環境に関する倫理的問題を考えるー」の3つの中単元を開発している。そして第10章では、年間の終結部の中単元として、「オバマとアインシュタインの呼びかけー倫理的問題に対する自己の価値観を形成するー」を開発している。

終章では、本研究の成果をまとめるとともに、今後の課題として、研究授業をさらに試行することを通して理論の有効性の実証や開発してきたカリキュラムの修正・改善を図ることと、カリキュラム及び学習の評価方法を開発することの必要性を述べている。

本研究は、以下の3点で評価できる。

第1に、高等学校学習指導要領公民科「倫理」に代表される「在り方生き方教育」にとどまっていた「倫理」カリキュラムを「市民性教育」としてのそれへと改革していくための新たな理論として、「価値観形成学習」を提案していることである。

第2に、先行研究における「価値観形成学習」の授業開発が単元レベルのものにとどまっていたのに対し、本研究では年間指導計画の中の全ての単元を開発し、カリキュラムの全体像を明らかにしていることである。

第3に、「価値観形成学習」に基づいて単元計画を作成し、高等学校での研究授業等の試行とその批判的分析に基づいて理論仮説と指導計画を吟味・修正し、現時点で到達している授業モデルとして開発するという、実験・実証的研究ともなっていることである。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成27年 2月12日